

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（領域開拓プログラム）
研究テーマ公募型研究テーマ 研究概要

課題 パンデミックなど世界規模の災禍への人間社会の対応と課題

研究テーマ名 新型コロナウイルスに関する主観的報告コーパスの自然言語処理による現象学的分析

責任機関 学校法人沖縄科学技術大学院大学学園

研究実施期間

令和2年10月～令和5年3月

研究プロジェクトチームの体制

研究代表者等の別	氏名	所属機関・部局・職名
研究代表者	Tom Froese	沖縄科学技術大学院大学・身体性認知科学ユニット・准教授
グループリーダー	Matthew RATCLIFFE	University of York, Department of Philosophy, Professor of Philosophy (Deputy Head of Department)
グループリーダー	Havi CAREL	University of Bristol, Department of Philosophy, Professor of Philosophy
グループリーダー	Matthew BROOME	University of Birmingham, School of Psychology, Professor of Psychiatry and Youth Mental Health (Director of the Institute for Mental Health)
グループリーダー	田口 茂	北海道大学 大学院文学研究院・大学院文学院・文学部 教授
分担者	Alice MALPASS	University of Bristol, Department of Population Health Sciences, Research Associate (Qualitative Research)
分担者	Clara HUMPSTON	University of Birmingham, Institute of Mental Health, Research Fellow (Youth Mental Health Methodology)
分担者	森 朋有	沖縄科学技術大学院大学・プロボストオフィス OISTヘルスセンター 客員研究員
分担者	Federico SANGATI	沖縄科学技術大学院大学・身体性認知科学ユニット リサーチアシスタント

配分（予定）額

（単位：円）

令和2年度	令和3年度	令和4年度
2,925,000円	5,850,000円	5,850,000円

※令和3年度・令和4年度については予定額

研究目的の概要

研究の目的：

長引く厳しい社会的距離の必要性は、現行パンデミックの特に困難な側面となっている。独房監禁が有害な結果をもたらすことは、精神医療の専門家には古くから知られており、社会的距離によって生じるネガティブな影響を緩和するためには、その影響をよりよく理解することが必要不可欠である。そこで我々は社会的距離の影響について人々が記述した主観的報告の大規模な多文化コーパスを収集し、その分析を行う。

研究の意義：

このコーパスを分析するために、国際的で学際的なプロジェクトチームを組織した。我々の方法は、自然言語処理における最新の計算手法と現象学及び精神病理学の概念フレームワークを組み合わせることである。本研究により、社会的距離が人間の体験に与える詳細な知見、またオンラインテクノロジーへの信頼を含む最も効果的な対処戦略についての新たな洞察などが成果として期待される。

研究計画の概要

令和2年度

- ① 匿名化と非特定化
- ② ランダムサンプルの匿名化を手動でテストする
- ③ 日本語とスペイン語のアンケート回答を英語に翻訳する
- ④ 定性分析：データ内の関連情報に注釈を付けるための協調ツールを設定する
- ⑤ 協力者の人口統計を用いたコーパスの記述レポート
- ⑥ 協力者向けの第1回内部ワークショップを開催する

令和3年度

- ① 単語列の単語数とパターンに基づいて言語統計を抽出する
- ② 回答の主要トピックを自動抽出する
- ③ 大まかな方法（ポジティブ/ネガティブ/ニュートラルな影響）と細かな方法（感情価/覚醒度）で全体的な感情を評価する
- ④ 社会的距離の影響（例：感情）と他のパラメーター（例：ロックダウン期間、世帯人数など）の相関関係を測定する
- ⑤ 第2回ワークショップを開催し、結果の共有と解釈を進める

令和4年度

- ① 応答に対するテキスト類似性を実行しそれを他の統計と関連付ける
- ② NLPベースのインフォグラフィックでコーパスを示し、人口統計で回答をフィルタリングする可能性を示すオンラインユーザーインターフェイスを構築する
- ③ コーパスをオンラインリソースとして公開する（Open Science Framework経由）
- ④ オンラインリポジトリでコードとスクリプトを公開する
- ⑤ 最終ワークショップで研究を締めくくり、オンラインリソースを完成させる